

特集

子どもと祭り

地域のふれあいは、子どもを真ん中に

豊倉 厚

児童館ってどんなところ？

まず、「児童館」と、私が館長を務めている品川区立八潮児童センターがどのようなところか、簡単にご紹介します。

「児童館」は児童福祉施設の一つとして児童福祉法第四十条に規定され、地域児童の健全育成を主たる目的とする「児童厚生施設」として位置づけられています。「児童養護施設」や「保育所」などほかの児童福祉施設は「措置」や「契約」を基本として、

入所者もしくは利用者である児童が限定されていることとは大きく違い、〇～十八歳までの児童と、児童の保護者であればいつでも自由に利用できる地域に開かれた唯一の施設です。

わが国の合計特殊出生率が「1・57%」と急落し「少子化」が社会問題として大きくクローズアップされた一九八九年以降は、それまでの児童への直接処遇に重点を置いた基本事業にとどまらず、児童館が子育て支援の地域拠点として、主に在宅子育て家庭へのさまざまなニーズに応じていけるよう、施

特 集 子 ども と 祭 り

設や事業の拡充を図ってきました。

品川区が初めて児童館を設置したのは昭和四十一年です。児童館は「児童センター」と呼称され、地域の乳幼児（またその親）や、中高校生に地域の身近な施設として親しまれてきました。八潮児童センターは、その二十五か所目の施設として昭和五十八年四月に品川区八潮五丁目に開設されました。延べ床面積1700㎡は都内で有数の広さを誇り、四年前の改装によって現在は練習スタジオ三か所、百人収容のライブホール、多目的に使用できるラウンジなどを整備して、ティーンズの音楽活動に重点を置きながら、一方では乳幼児親子へのきめ細かな支援に至るまで、文字通り〇〇十八歳までの幅広い事業展開をしています。

八潮子どもふれあいフェスタの開催

二〇〇八年十一月二十九日(土)、「地域のふれあい

は、子どもを真ん中

に」を合言葉に「第一回八潮子どもふれあいフェスタ」が開かれました。十一時のオープニングは、高校生バンドの元気があふれる演奏で幕を開けました。一階の多目的ラウンジでは、青少年対策地区委員の方々がサポートする形で、小学生グループの「おやつ縁日」が五店舗オーブン、その横ではピエロに扮した高齢者



▲高齢者グループによる手品



▲おやつ縁日



▲げんきっず写真展

グループが「手品」「動物バロン」や「占い」を担当しました。隣のライブホールでは、乳幼児母親グループの皆さんが、子どものオモチャや古着を

中心とした「リサイクルマーケット」を開店し、たくさん親子連れでにぎわいました。

またラウンジ奥のスペースでは、このイベントの目玉でもある「げんきっず写真コンテスト」を開催。

親（家族）だからこそ撮れるわが子の成長の「今」を写した一枚の写真を募集、応募六十六作品を展示し、審査委員はプロの写真家をはじめ、団地自治会

連合会長、学校長、幼稚園長、主任児童委員などの皆さんが快く引き受けてくださいました。

さらに、コンテスト終了後は商業施設の会長さんのご厚意

で、改めて「げんきっず写真展」として十日余り商業施設内に展示し、より多くの方々に見てもらう機会を設けることができました。

そして二階のスペースは、母親グループとボランティアサークルによる「小物や折り紙」のコーナー、そして具体的に子育てを応援する「乳幼児の健康ひろば」コーナーの運営には、地元の歯科医



▲歯医者さんによる歯科相談

師、保健師、民生児童委員、母親グループの皆さんが連携協力して運営にあたりました。

そして忘れてはならないのは、八潮児童センターのバンド活動で育った高校生スタッフの活躍です。彼らはオープニングの企画・運営はもちろん、乳幼児向け遊び歌、照明、音響、司会などの得意分野の技術を活かして素敵なステージを演出し、さらにはホール内にさまざまな大型遊具を設置した「幼児あそびコーナー」でも、幼児親子が楽しく安全に遊べるように、「遊びのお兄さん・お姉さん」に徹してくれました。

このようにイベント全体を運営する側も、このイベントに足を運んでくれたお客さんの側も、共に同じ地域に暮らす子ども、高校生、子育て中の親、子育てOBの親、高齢者であり、温かな雰囲気の中で世代を超えたふれあいと交流が実現できたと思っています。

子育て支援・子育て支援につながる

地域の「支え合い」のために

今日「少子化」「核家族化」など、子どもが育つうえで社会環境の大きな変化というハードルをどう越えていくのか、親はもちろんのこと、行政にも地域の一人ひとりの大人にも問われている時代です。特に八潮地域では大規模団地ならではの「一斉入居」のひずみが、今「少子化」と「高齢化」を一気に加速させています。

子育てを親だけが必死に頑張っても、高齢者の健康づくりを高齢者自身だけが頑張ってみても、あるいは、行政がさまざまなメニューを用意しても、これが地域全体の「支え合い」とならなければ、実を結ばないことは目に見えています。国も少子化社会対策大綱の具体的な実施計画として、二〇〇四年十二月に策定した「子ども・子育て応援プラン」の中

で「子育ての新たな支え合いと連帯」を重点施策の一つとして、各市区町村でも推進するよう提案しています。

「地域コミュニティの衰退」が進行している都市部において、こうした施策を実現していくのは容易ではありません。しかし、地域に暮らす住民同士が帰属意識をもつて自分たちの「街づくり」や「子ども」の未来」に関心を寄せてくれることができれば、決して難しくはないと思っています。

幸い、八潮児童センターは、昭和五十七年に誕生した約五千四百世帯、約一万三千人が暮らす大型団地の中心に開設されています。町会に代わる自治会をはじめ、各地域の団体や、高齢者のグループも、これまで二十数年にわたって「新しい街づくり」を経験してきた方々ばかりで、この街への思い入れは強く、地域の「支え合い」の中身を膨らませる条件は整っていました。

すでに子育てＯＢの母親グループや高齢者グループの方々が、母親向け「子育て応援講座」「親育ちワークショップ」「食育イベント」など、事業そのものや保育に協力してくれています。また、乳幼児親子運動会には必ず中学生、高校生が音響や用具の出し入れなどの裏方で活躍してくれています。このように「八潮子どもふれあいフェスタ」は、単に「一日限り」のイベントとしてではなく、〇〇十八歳までの子どもから高齢者も含め、さまざまな世代の人と人が、あるいは団体や関係機関が、日常的に無理なくつながり、子育てや子育てを応援していく一つの結節点になりつつあると考えています。

これからも、「子どもを真ん中」にした世代間の「ふれあい交流」を進め、地域の新たな「支え合い」のための土壌をしっかりと耕していきたいと思っています。

(品川区立八潮児童センター館長)

特(集) 子どもと祭り

【資料】第1回八潮子どもふれあいフェスタの概要

構成別	団体、グループ名	担当コーナー	
児童、生徒、青年	小学生グループ	《おやつ縁日》	
	高校生バンド	《ステージ》 幼児向け遊び歌 司会、音響、照明	
		《幼児あそびコーナー》	
	高校生・青年	《バルーンコーナー》	
高齢者グループ	やよい会	《占い》	
	あひるの会	《折り紙》	
	ゆりかもめの会	《手品・動物バルーン》	
幼児母親グループ	2・3歳児クラブ	《リサイクルマーケット》	
	自主クラブ		
地域母親グループ	Y学園読み聞かせの会	《読み聞かせ》	
	ボランティアサークル	《クラフト》	
	ひまわり	《乳幼児健康コーナー》	
歯科医院	歯科医師	身長体重計測	
保健センター	保健師	歯科相談	
地域構成団体	民生委員子育て支援部会	育児相談	
	青少年対策地区委員会	《おやつ縁日》小学生補助	
	健康づくり推進委員	《カラーコーナー》	
	連合自治会長(町会)	《げんきっす写真コンテスト》	
	主任児童委員	審査委員	
小中一貫校	Y学園校長	表彰	
商業施設	テナント会会長		
その他	プロ写真家		
幼稚園	W幼稚園園長		《幼稚園児作品展示》